

No. 44 2025年 9 月 28 日

三位一体後第十五主日礼拝  
 説教『恵みの神があなたを支える』  
 吉丸初美師  
 司会 大野友子さん  
 奏楽 自動演奏機  
 招詞 マタイ福音書 6章33～34節  
 主の祈 (564)  
 讃詠 5 4 6  
 交読詩編 詩 4 6 編  
 祈禱 美歌 21- 4 6 4  
 使徒信條 (566)  
 聖書 I ペテロの手紙 5章5b～11節  
 説教

『恵みの神があなたを支える』  
 祈禱 美歌 21- 4 2 3  
 献金 謝告 栄 5 4 2  
 祝 禱 奏

次週の礼拝 (三位一体後第十六主日礼拝)  
 説教『主にある満ち足りた恵み』  
 マルコ福音書 8 章 1～19 節  
 招詞 II コリント書9章8節、交読詩篇104  
 讃美歌 546、21-331、21-575、543

礼拝当番  
 今週 28日 司会 大野友子さん  
 次週 5日 司会 山根眞三さん  
 会堂清掃奉仕 10月5日(日)  
 コーヒータイム後に行います。

本日の集会

★教会学校 午前9時45分  
 ★出会いのひととき 礼拝後～  
 様々な思いを共有し、話し合いの時を持ちましょう。  
 ●レコードコンサート 午後1時～3時30分  
 シベリウス バイオリン協奏曲 二短調 作品47  
 ブロックナー 交響曲第9番 二短調 [原典版]  
 皆様お誘いあわせの上ご参加ください。  
 非日常な時間で気分をリフレッシュしませんか。

今週の集会/スケジュール

★西中国教区新任教師オリエンテーション9月30日(火)  
 11時～15時 於:日本基督教団 広島流川教会  
 吉丸伝道師が参加します。  
 ※めぐみ幼稚園そうめん流し 10月1日(水)12時～  
 保護者の方々企画して下さいました。  
 みんなで一緒に楽しい時間が過ごせるように  
 心合わせてお祈り下さい。

次週以降のスケジュール等

★聖書を読む会 10月7日(火)10時30分～12時  
 創世記を読んでそれぞれの思いや考えを話します。  
 聖書を読むことが楽しくなる時間です。個人が感じた  
 ままを、素直に話しています。是非参加してください  
 S 広島キリスト教信徒会理事会 10月7日(月)11時～  
 於:広島復活教会  
 ※めぐみ幼稚園礼拝 10月10日(金)10時30分～  
 出エジプト記20章3節をお話します。  
 ★広島西分区交換講壇10月26日(日)10時30分～  
 に予定されています。当日交換講壇は、広島流川教会  
 向井希夫先生です。お誘い合わせの上主日礼拝  
 にご参加ください。お待ちしております。

※ 広島朝禱会のご案内 ※  
 開催日時:毎月第一土曜日 8時20分～9時30分

先週の集会	男	女	計
教会学校	0	0	0
主日礼拝	5	8	13

◇今週の説教要旨(三位一体後第十五主日礼拝)  
 『恵みの神があなたを支える』I ペテロ書5章5b～11節  
 I ペテロの手紙は余り注目する機会のない手紙です  
 読者はローマ帝国の属国の異邦人信徒。彼らはとて  
 も困難な状況に置かれていました。信徒たちは、誰  
 に対しても何も悪いことをしていないのに、キリス  
 ト者であるということで社会的圧力・中傷・不利益  
 を受けていました。ペテロは彼らに、苦しみを絶望で  
 はなく希望につながるものとして語ります。私たち  
 も日々様々な不安や重荷を抱えながら生活していま  
 す。そこでペテロは、この箇所ですべて私たちの弱さや違  
 いをご存知の神の恵みを思い起こさせてくれます。  
 互いにへりくだり、信徒間の上下関係に拘わらず互  
 いに謙虚であることを勧め、共同体の秩序を保つこ  
 とを求めました。当時社会では、身分や権威によっ  
 て評価されていましたが、ペテロは「神の前では謙  
 遜が大切」と言い、地位が低く見られていた異邦人  
 信徒たちにとって大きな慰めとなりました。不安の  
 中にいた彼らにとって「神が顧みてくださる」とい  
 う確信は、非常に心強く希望になったのではないか  
 と思います。この御言葉は、能力や成果に頼らなく  
 ても、神の恵みが、日々の人生を導くことを信じる  
 者への約束でした。私たちがまた、心配や不安を抱  
 えた時、神に差し出すことができるのは「思い煩い  
 を神にゆだねなさい」という神の恵みがあるからで  
 はないでしょうか。私たちの神は、私たちの重荷を  
 共に担い、安らぎを与えてくださいます。しかし、  
 私たちの信仰生活には霊的な戦いが待ち受けていま  
 す。ペテロは孤独を抱いていた彼らに「自分たちだ  
 けではない」と知らせることで、普遍的な教会の一  
 員である意識を高めました。彼らにとって、これは  
 苦難が「終わりなきもの」ではなく「神が備えた栄  
 光への前段階」である、という希望になりました。  
 私たちがまた日々の暮らしの中で神の支えを信じ恵  
 みにより力づけられ希望を持ち歩む事ができます。